優秀賞

母に絵本を読んであげて

石井 浩子

わたしは、子供の時母に絵本を、読んでもらったことがありませんでした。それは、わたしが、3才の時から、4人の子供を、育て内職をしていたからです。

弟が小学一年わたしが、小学三年生の、時から、パートに行くようになり、月に一回好きな本を、買いなさいとおこづかいをくれました。小学校三年から、中学校三年生まで、いろいろなジャンルの本を読みました。五十才になった今でも本を、読むのが大好きです。本好きにしてくれた母に、感謝しています。マンガの本を見るのはちょっとにがてです。

わたしの夢は子供に絵本を、読んであげることでした。

これは夢におわっちゃんいました。母は脳こつそくになつてしまい入院して十二年になります。今母に絵本を読んであげています。中でも、一番好きな絵本母もわたしも好きなのが、きんぎよのおまつり高部晴市作です。なぜ好きかと言うと、元気な時に金魚やめだかをかっていたことがあるからです。アドリブで夜店の出てくる場面では、母もわたしも二百円のおこづかいをもって絵本の中に飛び込んで何を買つか迷ったりしてたのしんでいきます。母はしゃべれませんが眼であいずをします。母とわたしは、きんぎよすくいをしてたのしみます。食べものでは、わたしはりんごあめで、母はみずあめを買って食べたりもりになって楽しめます。そのあとは、本にもどります。やぐらのまわりできんぎよのおかあさんとおどりをいっしょにおどります。母も笑顔わたしも笑顔になれににこ顔に、なれます。まさか、母に、絵本を読ん

であげることになるとは思っていないんですけど、いろいろな絵本を読んであげたいと思います。お母さん、わたしを生んでくれてありがとうこれからもよろしくね。おかあさんに絵本を、読んであげてる人に会ってみたいと思っています。

これからも、2人姉とわたしと弟でちからあわせてお母さんの、看病がんばります。

今のわたしの夢は、自分で作った話を絵本にして、母に読んであげたいと思います。

一日でも長生きしてね。いつもありがとうこれからもがんばって絵本を読んでいきます。

【柳田邦男さんからのメッセージ】

石井さんは、子どものころ、絵本を読んでもらった経験はなかったけれど、小中学生時代に、母親が毎月本を買っておこづかいを

くれたので、本好きになったということですよ。

その感謝の気持ちをこめて、五十歳台になった今、脳梗塞で言葉を話せなくなった入院中の母親に、絵本を読んであげているという。絵本に描かれた風景を見ながら、アドリブで母と遊んだりおどったりして、ふたりで笑顔になるなんて、なんてすばらしいことでしょう。

脳梗塞の後遺症で言葉での表現ができなくなっても、喜怒哀楽の感情が生きている例は少なくありません。特に聴覚は残ることが多いです。本を読んであげたり、いろいろな話題を話してあげたりするのは、患者さんにとってもいいことなのです。

石井さん、手づくり絵本をぜひ作ってみてください。毎日、ストーリーを考え、メモをしておくといいです。あるいは、母親が喜こんでくれそうな絵を先に描いて、物語を後で考えてもいいでしょう。石井さん自身にとっても、毎日が楽しくなると思います。